

国語科学習指導案（1年2組）

1 単元 関係を見いだす（題材名「笑顔という魔法」）

2 単元設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け

[知識及び技能]

(1) エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。

[思考力、判断力、表現力等]

C読むこと(1)ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。

②単元の価値

本単元における題材は中学校における最初の説明的な文章である。筆者は著名な脳科学者であり、笑顔のもつ「魔法」のような効力を2つの実験を基に論じている。

知識及び技能では、「つまり」という接続する語句に注目させることで本論における重要な部分を見つけたり、「～したいものです」という文末表現から筆者の主張が表れている一文を見つけたりすることができるとともに、接続する語句や文末表現の役割について理解することができる。と考える。

思考力・判断力・表現力では、「問い」と「答え」に注目することで本論における重要な部分を見つけたり、筆者の読者を想定した論理の展開（学習用語「論理」）に注目することで本論の後半部における重要な部分に気付いたりすることができる。と考える。

③単元の系統性

- ・小学校では事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるよう学習を重ねてきた。
- ・第2学年では文章全体と部分との関係に注目しながら、主張と例示との関係などを捉えることができるよう学習をしていく。
- ・第3学年では文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方などを捉えることができる学習をしていく。

(2) 生徒観（男子17名、女子17名 計34名）

①既習の学習内容や活動

- ・小学校での説明的な文章の学習において繰り返し「はじめ・なか・おわり」という三部構成について学んできている。
- ・本文の中心的な部分に気付くために「このように」などの接続する語句に注目することを学んできている。

②本単元に関わる生徒の実態

- ・知識及び技能では、生徒に対して、これまでの説明的な文章を用いた学習でどのようなことを学んできたのかを自由記述式で調査した結果、接続する語句に関する回答をした生徒は0名であった。説明的な文章を読む際にあまり意識していない様子がうかがえる。
- ・思考力・判断力・表現力では、調査の結果、15名の生徒が「はじめ・なか・おわり」「頭括型・尾括型・双括型」と回答した。形式に関する知識が意識されている。また、「文章構成」や「要旨」といった内容面に関する解答は数名にとどまった。このことから説明的な文章を用いた学習では、本文の内容に関する知識も意識されにくいことが分かる。

(3) 指導観

- ・小学校で学んだ説明的な文章を練習教材として要旨を捉える活動を行うことで、要旨を捉える方法や意義を理解させる。
- ・生徒が一般化している「はじめ・なか・おわり」を基に文章を3つに分けることで、筆者の主張が書かれている形式段落に注目しやすくする。
- ・「問い」と「答え」に注目させることで、「なか」における中心的な部分に気付けるようにす

る。

- ・「なか」を実験例から2つに分けるとともに後半部の必要性を検討することで、筆者の「論理」と題名にもある「魔法」のような効用に注目させる。
- ・これまで捉えてきた筆者の主張、本論の中心的な部分、題名をまとめさせることで、要旨を捉えさせる。

3 単元の目標

「問い」に対する「答え」の確認や本文における論理の展開についての話合いを通して、文章の中心的な部分と付加的な部分を捉えるとともに、要旨を把握することができる。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (3/4)

(1) 目標

2つ目の実験の必要性について話し合うことで、読者を想定した論理の展開について自分なりの考えをもつことができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張は、文末表現に注目することで最後の一文だと分かったな。 今日は「なか」の2つ目に注目するのがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の大筋を捉えるのに「はじめ・なか・おわり」や「問い」と「答え」、文末表現や接続する語句が手がかりとなったことを確認した後、第一時に書かせた生徒の感想を紹介することで、本時の課題を確認させるとともに、見通しをもって取り組むことができるようにする。
<p>課題：なぜ、2つ目の実験が必要なのか考えよう。</p>	
<p>2 2つ目の実験の必要性を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要だと思う。筆者の主張に納得するには2つ目の実験が必要だ。 必要ないと思う。1つ目の実験だけで筆者の主張に納得できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めに必要だと思うか思わないかを必ず表明させることで、全員の参加を促す。 必要性についての根拠を簡条書きさせるとともに、3～4人のグループで話し合いをさせることで、後の全体での話し合いにおいて発言しやすい雰囲気を作る。
<p>3 2つ目の実験の必要性を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つ目の実験だけで読み手が筆者の主張に納得するのか。 「問い」に対応しているのは1つ目の実験である。重要な実験の1つで十分だと考える。 逆に1つで十分なのだから、2つ目の実験は無くていいのではないか。 第9形式段落に「魔法」とある。「魔法」と読み手が感じるには2つ目の実験が必要なのではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 少数派の意見から立論させることで、どちらの立場からも発言が出やすいようにする。 それぞれの立論が終わった後、質問や反論を行わせることで、2つ目の実験の必要性についての根拠をより本文に即したものにさせる。 それぞれの立場の意見を比較、検討することが難しい場合には2つ目の実験を除いた本文を提示することで2つ目の実験が無い場合を視覚的に捉えさせる。 質問や反論が出ない場合には再度、同じ立場同士で質問や反論を考えさせるとともに予想できる反論を考えさせることで、話し合いでの発言を促す。 第9形式段落や題名に使用される「魔法」という言葉に注目した生徒については、着眼のよさを称賛するとともに、次時の要旨を捉える活動につなげられるようにする。
<p>4 2つ目の実験をなぜ筆者は取り入れたのか、自分の言葉で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者は笑顔を「魔法」のようだと伝えたかったから2つ目の実験を取り入れたのだな。 多くの読者を確かに「魔法」だと納得させるなら、2つ目の実験が必要なのだろうな。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>叙述を基に、2つ目の実験の必要性について考えたことをノートにまとめるができる。(ノートの記述、発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場から話し合ったことで筆者の主張までの筋道を理解することができたことを称賛するとともに、主張までの筋道のことを「論理」ということを伝える。
<p>〈振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「論理」を考えることで、なぜ筆者が2つの実験を取り入れたのか分かったな。 「論理」に着目することで、説明文の内容をより深く理解することができたな。 	

＜「思考力・判断力・表現力等」育成のための具体的な手だて＞

(1) 「読むこと」で学んだことを「書くこと」に生かす学習過程の工夫

指導と評価の計画 国語 1年 教材「笑顔という魔法」(全4時間計画)

目標	「問い」に対する「答え」の確認や本文における論理の展開についての話し合いを通して、文章の中心的部分と付加的な部分を捉えるとともに、要旨を把握することができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】 接続する語句の役割について理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 説明の仕方に関心をもつとともに、筆者の「論理」を捉える技能を、次の説明的な文章の学びに生かそうとしている。</p>				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価項目 (方法・観点)
つかむ	1	<p>◎要旨を捉える意義や方法を理解することができる。</p> <p>要旨を捉える方法を知ろう。</p>	<p>○練習教材を用いて、要旨の捉え方を確認する。</p> <p>○全文を読む。</p> <p>○分かったことや気付いたこと、思ったことを発表し合う。</p>	<p>☆要旨を捉えることで、第三者に端的に内容を伝えることができるのだな。</p> <p>☆本文は4つのまとまりに分けることができそうだな。</p> <p>☆「笑顔という魔法」でも正確に要旨を捉えよう。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 要旨を捉える意義や方法が理解できる。(ノートの記述、発言)</p> <p>★学習用語「要旨」</p>
追究する	1	<p>◎文章の大筋を理解することができる。</p> <p>文章のおおまかな内容を捉えよう。</p>	<p>○本文を4つのまとまりに分ける。</p> <p>○文章表現に注目し、文章の中心的部分を捉える。</p> <p>○筆者の主張が書かれた一文に注目する。</p>	<p>☆「はじめ・なか・おわり」や「問い」に対する「答え」の部分に注目すると、文章の大切な一文が分かるな。</p> <p>☆文末表現や接続する語句に注目すると、筆者の主張を見つけることができるのだな。</p>	<p>【知識・技能】 「答え」や表現に注目し、文章の大筋を捉えることができる。(教科書の記述、発言)</p> <p>★学習用語「構成」</p>
る	1 本時	<p>◎本文における論理の展開を自分なりに説明することができる。</p> <p>なぜ、2つ目の実験が必要なのか考えよう。</p>	<p>○2つ目の実験は必要かどうか、話し合う。</p> <p>○筆者が2つ目の実験を取り入れた理由を自分なりにノートにまとめる。</p>	<p>☆筆者は読者を納得させるために2つの実験を本文に書いたのだな。</p> <p>☆主張までの筋道を「論理」というのだな。</p> <p>☆「論理」について考えることで本文の大切な一文が明確になったな。</p>	<p>【思考・判断・表現】 叙述を基に、2つ目の実験の必要性について考えたことをノートにまとめるができる。(ノートの記述、発言)</p> <p>★学習用語「論理」</p>
まとめる	1	<p>◎要旨を捉えることができる。</p> <p>要旨を捉えよう。</p>	<p>○本論後半部のまとめとなる一文を確認する。</p> <p>○「答え」の一文、筆者の主張が端的に表されている一文をもとに要旨をまとめる。</p>	<p>☆要旨とは本論の内容と筆者の主張をまとめればいいのだな。</p> <p>☆「問い」に対する「答え」や「論理」に注目することで本文の内容をより深く理解することができるな。</p>	<p>【思考・判断・表現】 要旨を適切にまとめることができる。(ノートの記述)</p> <p>★学習用語「要旨」</p>